

ポイント③ 申請のためにはどのような準備がいるの??

10月3日から募集開始の第18回のスケジュールを参考に、申請のために必要な準備や書類を確認しましょう。

- 申請受付締切：2025年11月28日（金）17：00
- 事業支援計画書（様式4）発行の受付締切：2025年11月18日（火）

基本的に★様式4以外は、全て申請システムに直接入力します。現状持続化補助金は電子申請が必須になっています。第18回の電子申請システムにログインするためには、GビズID プライムもしくはGビズIDメンバーのアカウント取得が必要です。マイナンバーカードがあれば即日発効ができますが、ない場合は数週間かかる場合がありますので、事前に計画的にアカウントを取得しておくことが重要です。



GビズID

- ・持続化補助金事業に係る申請書（様式1）
- **経営計画兼補助事業計画①（様式2）**
→作成に一番時間がかかり最も重要！
- ・補助事業計画②（様式3）
- ★事業支援計画書（様式4）
→商工会議所が発行（注意：×11/18）
- ・補助金交付申請書（様式5）
- ・宣誓・同意書（様式6）

※主な申請書を抜粋（法人、個人、申請枠によって追加資料あり）

また申請に必要な★様式4は商工会議所が発行します。発行のためにはその他の様式が完成している必要があります。★様式4発行のためにも、早い段階で商工会議所にお問い合わせをいただき、その他の様式の確認を受けてください。

そして、申請書の中で最も重要になるものが「様式2（経営計画兼補助事業計画）」です。経営計画書は「自社の過去・現在・未来」について、補助事業計画書は「補助金を使ってなにをするか」についてまとめた書類のことです。これら計画書が、補助金事務局によって「審査項目」に沿って採点され、その上位が採択となることから、この様式2がどれだけしっかりと作りこまれているかがキモになります。申請すれば全員が補助金をもらえるということではないのです。

ポイント④ 採択率を上げるポイントは「持続化補助金の趣旨を理解する」こと!!

全員が貰えるワケじゃない!? 直近の採択率について

直近3回の採択率は、第15回約42%→第16回約37%→第17回約56%と推移しています。では、どのようにすれば採択率を上げることができるのでしょうか？私は最も重要なポイントとして「持続化補助金の趣旨をよく理解する」ことをお勧めしたいと思います。

「持続化」ってなんだろう

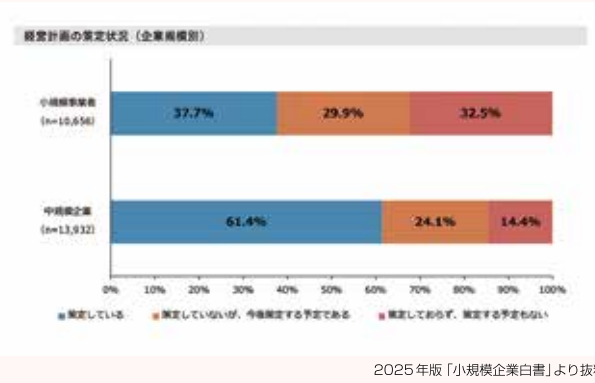
そもそもこの補助金の名前に冠されている「持続化」とは何なのでしょう？それを考えるためには、まずみなさんが置かれている状況を把握する必要があります。日本の全事業者の99.7%が中小企業・小規模事業者といわれ、そのうち約85%がこの補助金の対象にもなっている小規模事業者の方々です。

小規模事業者は、事業者全体の大多数を占め、地域の雇用や産業を支える日本経済の伸長に不可欠な存在です。しかし、大企業に比べて資金力や労働力に乏しく、常に過酷な競争にさらされています。その結果、大企業や中小企業よりも廃業に至る可能性が高いという現実があります。

そこで国は、小規模事業者が「持続的に発展」していくことを重要視しています。この補助金における「持続化」とは、まさにこの点を意味しているのです。

では、「持続的に発展」していくためにはどうすればよいのでしょうか？右の図をご覧ください。

小規模事業者と中規模企業を比較したときに、先述したとおり、より「持続的に発展」しているのは中規模企業の方です。そして、その違いを生み出している源泉は「経営計画があるかどうか」だと考えられています。実際、中規模企業の6割が経営計画を策定しているのに対し、小規模事業者は4割弱に留まっています。小規模事業の経営者の方は、その事業のプロフェッショナルですが、日々の業務に追われ、将来の計画を立てるための情報整理まで手が回らないことも多いのではないのでしょうか？



2025年版「小規模企業白書」より抜粋

初めての小規模事業者持続化補助金！ 経営者が知っておくべきポイント

岐阜商工会議所
支援グループ
中小企業診断士
磯野 拓実



2018年岐阜商工会議所入所、20年に経営支援員となり、23年に中小企業診断士登録、延べ300社の中小規模事業者の支援を行う。

そもそも「小規模事業者持続化補助金」ってなに？

販路拡大や新規顧客獲得に使える万能補助金！

小規模事業者の方が利用できる販路拡大や、新規顧客獲得に係る経費の一部（設備投資や広報に係る費用等）を国が補助してくれるものです。

○補助上限：50万円 ※特例を活用した場合は、上限に変更有

○補助率：2／3

つまり、75万円の経費の内50万円が補助されるということです。紙面スペースの関係で、詳しい制度概要についての説明は省略させていただきます。詳細については、二次元コードよりご確認ください。



制度概要

経営者が知っておくべきポイント

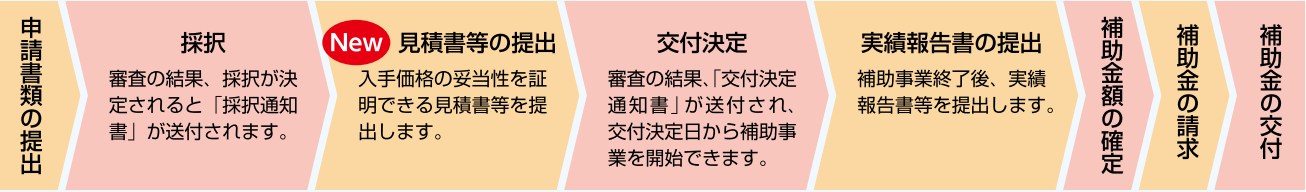
ポイント① 50万円って少ない？多い？

事業者の方の中には、補助金の額を見て「少ないな…」「労力に見合うのかな…」と思われた方も多いのではないのでしょうか？ここで強調したいのは、この50万円は、売上の50万円ではなく、利益の50万円ということです。

仮に利益率が5%だと考えると、投資に使える50万円を手元に残すためには、1,000万円の売上が必要であることが分かります。そう考えると、この補助金がどれほど経営に大きな影響を与えるかイメージできるはずです。

ポイント② 補助金って申請すればすぐ貰えるの？

申請するとすぐに入金されるイメージがあるかもしれませんが、意外と時間がかかります。下のフロー図で確認してみましょう。



※持続化補助金HP補助金交付までの流れより抜粋

申請受付締切までに申請書類を提出（電子申請）したとします。ここから採択発表（合格か不合格か）までに約4ヵ月かかります。前回の第17回から、採択発表と交付決定の間に新たに「見積書等の提出」のフェーズが追加されたことで、そこから更に1～2ヵ月程度の見積書価格の妥当性確認に時間が取られることになりました。見積書価格に妥当性が認められると補助金事務局から「交付決定通知書」が発行されます。すなわち、申請してからおよそ半年後にしようやく購入や発注、支払いをすることができるようになるのです。

ここでの注意点が、まだこの時点では補助金は入金されていないということです。一般的な補助金の大前提でもありますが、これはつまり、この時点の支払いは全額自費で賄わなくてはならず、補助金そのものを種銭にして支払いをすることができないという訳です。一見補助金はお金をもらえる制度であることから錯覚しがちですが、実は補助金が入金されるまで一時的に資金繰りが悪化することを、申請者はよく把握しておく必要があります。

実際にものを購入し、支払いを完了させたのちには実績報告を行います。その後種々手続きを踏んでようやく指定の口座に補助金が入金されます。全ての補助事業が完了するまでに例えば約3ヵ月、実績報告から入金までに約1～2ヵ月かかるとすると、補助金の申請から入金までに1年弱ほどかかるのです。

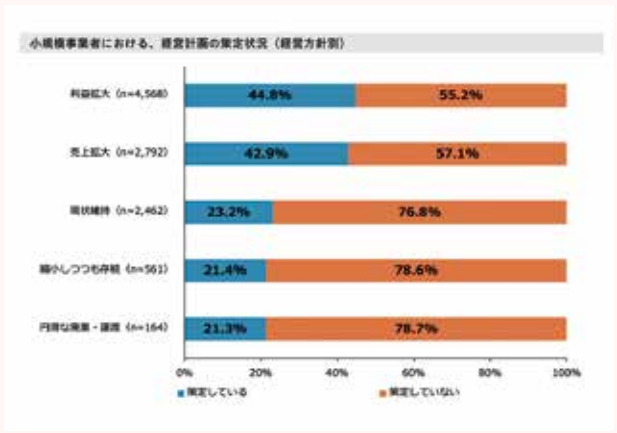
補助金を使って何かを始めるには、想像よりも時間がかかります。補助金を理由に商機を逃すのは本末転倒ですので、実際の導入や発注の時期は先でもいいのか、補助金が入金されるまでの資金繰りは大丈夫かなど、事前に十分確認しましょう。

経営計画があると利益が上がる！？

経営計画の有無が経営にどれほど影響を与えるのか確認してみましょう。

右図から売上拡大、利益拡大している小規模事業者のおよそ半数は経営計画を策定していることが分かります。逆に現状維持、縮小傾向にある事業者の8割は経営計画を策定していません。一つ前の図と併せて考えると、全体の4割弱しか経営計画を策定していない状態で、売上、利益拡大した事業者の半数が経営計画を策定していたと考えると、その効果は非常に大きいと分かるはずです。経営計画なんて作らなくても経営はできるかもしれませんが、「持続的な発展」のためには経営計画は大きな要因であることは明白です。

以上のことから、小規模事業者の「持続的な発展」のためには「経営計画」が重要であるものの、色々な要因でその策定が進んでいないことが分かりました。つまり、この持続化補助金の趣旨とは、国がなかなか「経営計画」を作るきっかけがない小規模事業者に対し、頑張って経営計画（3～5年の中期計画）をつくり、その計画遂行のための投資をするのであれば、補助金を交付してそれを支援しようとしているわけなのです。



2025年版「小規模企業白書」より抜粋

この補助金の趣旨を理解していないが故に、様式2においてこの経営計画と補助事業計画がリンクしていないケースが結構あるように思います。補助金を使う事業は経営計画における第一歩でなければ、整合性がないと判断されてしまいます。どれだけ部分部分の記述が良かったとしても、この整合性がないために、不採択になった方も過去にはいらっしゃいます。

経営計画のイメージは登山計画！！

ここで言う「経営計画」とは、3～5年の中期を見据えた計画、つまり、3～5年後にこうなっていきたいという「目指す姿」を決め、それを目指すための戦略と行動計画をまとめたものです。この戦略とは「強みを活かして市場の機会を捉えた戦略」のことであり、様式2を記述していくと自然とそのような戦略を考えることができるような形式になっています。きっかけが補助金であったとしても、この補助金の趣旨のとおり、ぜひ一度立ち止まって経営計画を作っていただきたいです。

経営計画をイメージするときは、登山計画に置き換えて考えると分かりやすいです。山頂が「目指す姿」、山頂までの道が「戦略」、そしてその道をどう進んでいくかが「行動計画」です。補助金を使ってやることは、差し詰めその第一歩だと考えます。



経営計画書作成の手順について

最後に様式2（経営計画兼補助事業計画）を作成するうえでの手順をまとめました。作成の際のチェックリストとしてご活用ください。

申請書を作ってみようの段階で、どうしてもよく分からなくなってしまった方でも大丈夫です。商工会議所の経営支援員が書き方のポイントを分かりやすく説明します。お気軽にご連絡ください。

- ☐ GビズIDを取得する
- ☐ 公募要領をしっかりと読み込む
- ☐ 審査項目を読む（公募要領P31～）
- ☐ まずはざっくりと申請書を作ってみよう
- ☐ それを商工会議所に見てもらおう

おわりに

私個人としては小規模事業者持続化補助金をきっかけにぜひ3年先、5年先を見据えた経営計画を作っていただきたいと考えています。補助金の金額以上の効果がきっとあるはずです。一人で考えることが難しい場合は我々経営支援員を頼っていただきたいと思います。